

群馬県立文書館

文書館だより

TEL 027 (221) 2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/>

第44号 平成19年1月



寺子屋の教科書 往来物いろいろ

上の資料は、寺子屋の教科書として使われた往来物といわれるものです。

寺子屋は、中世の寺院教育にその起源を持ち、江戸時代に入って庶民の教育機関として広く普及しました。「読み書き」を中心としたことから関東では「手習塾」「手習所」と呼ばれることが多かったようです。また「そろばん」や生活に必要な知識や道徳などを教授しました。こうした寺子屋は十八世紀の半ばから明治の初めにかけて爆発的に増加していきました。この背景には、経済の発達にともなって庶民にも「読み書き」の能力が必要とされたこと、子育てや子どももの教育に関心が高まってきたことがあげられます。

往来物という言葉は、往復一対の手紙文を手習いのお手本としたことから名付けられました。古くは平安時代にまでさかのぼることができ、寺子屋の増加にもなつて数多く作られました。手紙文だけでなく、日常生活に使用する単語などを収録したものもあらわれ、その種類は七千種をこえるといわれています。

また地域的な往来物も作られ、県内でも「高崎往来」「渋川往来」「上小出往来」「三原往来」や「村名尽」「郡尽」で各地の地誌や地名を学びました。

特別展・企画展

ぐんま・学びと

子育て300年

「寺子屋から近代教育への歩み」

文書館では、次のとおり、特別展・企画展を開催します。

特別展 平成十九年一月二十六日(金)～

一月三十一日(火) 九時～十八時

県庁県民ホール(南側)

企画展 平成十九年二月六日(火)～

五月二十七日(日) 文書館展示室

九時～十七時 休館(月曜・祝

日・月未)

群馬県は、明治五年(一八七二)の学

制公布以来、第二次群馬県の初代県令であった根取素彦のもと学校の整備や「修身説約」など県独自の教科書編纂などを行い、全国的に教育の盛んな県として知られてきました。また県では現在、「子どもを育てるなら群馬県」をスローガンに掲げ、子育て支援や学校教育・生涯学習に関するさまざまな施策に取り組んでいるところです。

今回は、子育てや教育にスポットを当て、館収蔵の江戸時代の古文書・教科書類や明治以降の公文書・行政資料などを展示します。子どもの成長や育成に関心

が高まってきた江戸時代後半からの300年の歩みや先人の取り組みなどを振り返るなかで、現代群馬における教育のあり方をあらためて見直し、考えることができると思います。

展示は次のようなコーナーを設けておられます。

○群馬の学びと子育ての歴史

江戸時代から現代にいたる群馬の学びと子育ての歴史を年表にまとめました。

○江戸時代の子育てと文教政策

人びとがどのように子どもを育てているとしたのか、また地域と子育ての間わりを紹介いたします。次に、間引きのいましめや小児養育制度などの資料から子育てに関する政策を紹介いたします。

○庶民の学び、武士の学び

寺子屋や郷学の資料から庶民の学びについて、藩校などの資料から武士の学びについて紹介していきます。寺子屋については昭和二十九年に製作された富士見村の九十九庵の様子を復元したスライドの展示も行います。

○近代教育の始まり

学制の公布により各地に急速に小学校がつくられた実態とその背景に学区取締など地域の人々の努力があったことを紹介していきます。

○社会教育の歩み

学校教育が整備されるとともに社会教

育も少年団・青年団など各種団体が盛んに活動を行っていく様子を紹介していきます。

○江戸から近代の教科書いろいろ

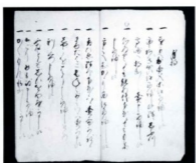
往來物と明治期に群馬で作られた教科書を紹介いたします。実際に手にとってご覧下さい。(但し複製)

○「読・書・算」の体験コーナー

子どもから大人まで楽しめるコーナーです。ぜひ江戸時代の寺子屋に通う子どもになってチャレンジして下さい。

ここでは、江戸と明治の資料を一点ずつ紹介いたします。

◇左の資料は、吾妻郡岩井村伊能家の家訓です。内容は、主に農産物の売買に関する指針と処世訓が書かれています。



宝暦6年(1756) 伊能家家訓 P8003-310

江戸時代の子育ては家の存続に関わる重要なことでした。

◇明治五年「学制」が公布され、近代教育が始まりました。

この頃の教科書は、同年公布の「小学教則」で指示されましたが、府県や個人でも自由に出版されたことができませんでした。群馬県でも多くの教科書が出版されています。県学務課に在職していた木戸鶴が編纂した「修身説約」は、修身の教科書として県内外で使用されました。師範学校教員吉田嘉蔵編纂の「上野国地誌概略」は、本県最初の郷土

読本として広く使われました。その後、時勢の変遷に合わせて新たに編纂され、「群馬県地誌略」として出版されました。



明治十六年(一八八三)「群馬県地誌略」 P八二〇六一七五八

このような内容で開催いたしますので、ぜひお出かけ下さい。そして、文書館に來館の際には、ぜひ実物の文書を手にとっていたいただき、ここで紹介できなかった古文書・公文書をご覧頂ければと思います。

第32回全国大会

〔岡山〕

公文書をはじめとする史料の保存機関一六二施設でつくる全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の第32回全国大会が、平成18年11月8日（水）から10日（金）までの三日間、岡山県岡山市で開催されました。

「アーカイブズの新時代へー理想と現実のはざままで」をメインテーマに、行政や大学の職員ら約二五〇人が参加して、アーカイブズの現場で起きているさまざまな問題を共有するとともに、厳しい現実の中でいかに目指すべきアーカイブズ像に近づいていけばよいか、議論を深め



全体会で論じる報告者たち

ていきました。

アーカイブズを取り巻く状況は、予算の削減や指定管理者制度の導入、電子文書の増加、市町村合併時の文書保存など、さまざまな問題点が噴出しています。一方、内閣府の懇談会や総合研究開発機構公文書管理法研究会などからは文書保存の重要性が説かれ、また各文書館の活動をとおして、市民の中にも確実に文書の大切さが浸透していることも事実です。

これらを踏まえ、「岡山県におけるアーカイブズの現状」（定兼学：岡山県立記録資料館）と「倉敷市における歴史資料整備」（山本太郎：倉敷市歴史資料資料室）の報告、「市町村合併に伴う公文書保存の支援活動」（吉田真夫：山口県文書館）、「大学からアーカイブズを考える」（西山伸：京都大学文学書館）、「情報窓口としてのWebサイト活用」（申川浩吉：新潟県立文書館）の三分科会を経て、山本幸俊（上越市公文書館準備室）の司会のもと、多様な視点から討論されました。

大会中に具体的な答えを出せるようなものばかりではありませんが、参加者が職場に戻ったとき、仕事を進める上で確かな指針を見出すことができました。ありません。

全史料協ホームページ <http://www.waishi.or.jp/> に大会概要が掲載されています。

県立吉井高校 群馬学講座



第2回受講生徒と教材

群馬県立文書館では、教育普及・学校連携活動の一環として位置付け、依頼に応じて社会科、総合学習等への講師派遣を行っています。

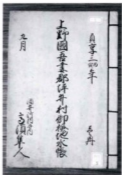
今年度は県立吉井高校の群馬学講座において、6人の講師で七日間計14時間の授業を行いました。各授業の内容は次の通りです。

- ①文書館の紹介・くずし字入門
- ②榊林仁叟寺子仏像に込められた人々の願い
- ③天災は忘れた頃にやってくる！天明

- ④江戸時代の村の基本台帳！検地帳と宗門人別改帳
- ⑤甘楽・多野地域の村議定（きまり）の今昔！
- ⑥群馬についてどのまじりしてできたの？
- ⑦「郷土誌」からひとくく100年前の自分のふるさと

各講師が、文書館所蔵資料や地域の資料・題材を用い、プレゼンテーションや体験活動を取り入れるなど授業構成も工夫しました。

なお、本講座でも活用しましたが、当館所蔵の古文書、記録、行政文書、絵地図、写真などの中から学校の授業の中で教材として利用できるものを精選し「授業で使えるぐんまの資料」として刊行しています。（定価千円で好評販売中。）地域資料を用いた授業展開をすることで歴史への親しみが増し、地域への愛着が育まれることを期待しています。



第4回資料 御検地水帳

明治時代へ タイムスリップ

公文書で見る黎明期の群馬県
〈衛生・健康・安全の確立を
めざして〉

開催報告

当館では、閲覧利用の便を図るため、行政文書の件名目録作成に取り組んでおり、昨年度は「第十七集 明治期令達編」を刊行することができました。その成果をみなさまに紹介したいと考え、群馬県の明治時代におけるさまざまな令達の中から衛生・健康・安全に関する文書にスポットをあてた展示会を開催いたしました。七月二十日(木)から九月二十四日(日)までの五六日間で三〇一人の方にご覧いただきました。

会場では、「県民を脅かした伝染病の実態と対策」「安心して飲める水を」「健康・安全な暮らしのために」と、三つのコーナーを設けた展示を行いました。
改良井戸の図
明一八三八



それぞれのコーナーでは、伝染病から身を守るための方法や衛生的な水を確保

するための密閉式井戸への改良方法など、現在にも受け継がれている生活上の工夫を紹介することができました。

また、展示期間が学校の夏休みと重なることから、小中学生向けに「展示を見ながらクイズに挑戦しよう!」コーナーを設置しました。これは、展示に関係する全十問の問題に答えていくと、文書館に関係するキーワードが見つかるといものでした。同時開催の「文書館」なども探検隊や「古文書くずし字解説コーナー」の来館者と相まって、このクイズには二〇〇名近い利用がありました。

展示終了後のアンケート結果から、観覧者の方々は「畜犬取締規則」や「自転車取締規則」などに興味を示して下さいました。また、文書中心の展示になってしまいがちな点を指摘して下さった方もいらっしやいました。これは、今後の展示の課題として受け止めて行きたいと思っております。

群馬県の明治時代は現在と比較してどんな時代だったのか、この展示をご覧になった方は、ほんのひとつと明治時代へタイムスリップしていただけたことと思います。なお、展示期間は終了しましたが、文書館のホームページでは、引き続きこの展示をご覧いただけます。

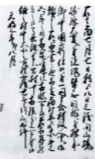
URL <http://www.archives.pref.gunma.jp/> まいごうせ。

古文書から見る 江戸時代

村の掟と庶民の生活

開催報告

この展示は、当館で収蔵する数多くの村掟の中から特徴的なものを取り上げ、江戸時代の人々の生活と地域の姿を紹介し、あわせて資料の保存活用についても理解を深める一助としていただきたいという趣旨で開催いたしました。十月二十五日(水)から十二月二十四日(日)まで、四十八日間で四三六人の方にご覧いただきました。また、展示した史料は、十一月十六日(木)から文書館のホームページ「村定連判帳」P八二二七八~八七四



ジ上で公開し、一七〇人以上の方に見ていただいています。

会場は、小テーマごとにコーナーを設け、村掟と領主法との比較、時代の変遷と村掟、地域的な特徴を持つ村掟などを展示・解説しました。中でも村内の細を窺うす犯人を特定するため、村人たちが入札を行うことを決めた掟や、天明三年の浅間山噴火の直後に取り決められた非常に際しての質素節約の掟などは、観覧した方々の興味を引いたようです。

また、展示はすべて複製で行いました。が、実物の史料を見たいと、閲覧室を利用していかれた方もいました。

本展示では、観覧していただく際の参考となるように、使用した史料二八点の写真や部分的な釈文・解説等を掲載した資料集を作成いたしました。これに関しましてはアンケートで、多くの方から「とてもよい(参考になった)」「後日ゆっくり勉強したい」との感想をいただきました。また、近代以降の村掟について書かれた小論が掲載されていた「文書館だより」のバックナンバーのコピーを参考資料として、観覧した方々へ配付いたしました。これも、展示の内容を理解するのに役立つたようです。

今後も内容をわかりやすく提示するための工夫をし、より良い展示となるよう心がけていきたいと思っております。

新たに収蔵された

古文書

〔寄贈・寄託された古文書〕

(平成十七年十月以降)

◎明治十年・十二年群馬県諸学校教則・学則等

◎明治期の教則・学則など四点(寄贈)

◎吾妻郡吾妻町・大戸区有文書

◎吾妻町指定文化財を含む、大戸村・大戸区に関する文書(九二四点)(寄託)

◎前橋市鼻毛石町・北戸行政家文書

◎北爪家に伝わる江戸・明治期の文書など四四四点(寄贈)

◎前橋市富田町・森村伊勢雄家文書

◎昭和十一年から昭和二十一年の農業日記など五六二点(寄贈)

◎吾妻郡長野原町林・浦野安孫家文書

◎近世修験関係を中心とした浦野家伝来の古文書類一五五点(寄託)

◎利根郡みなかみ町猿ヶ京温泉・林強一氏収集文書

◎猿ヶ京温泉を中心とした古文書類六四二点(寄託)

◎神奈川県川崎市・伊藤多美子氏収集文書

◎群馬県各地の地券三三三三点(寄贈)

◎「マイク口収集文書」

◎「明初期『郷土誌』」

◎「新」に次の九点を収集しました。

◎藤岡市教育委員会所蔵

◎「藤岡町郷土誌」・「日野村郷土誌」

◎「三波川村郷土誌」・「神川村郷土誌」

◎「美九里村郷土誌」・「鬼石町郷土誌」

◎明和町教育委員会所蔵

◎「梅島村郷土誌」・「千江田村郷土誌」

◎「佐貫村郷土誌」

◎新たに閲覧できる

古文書

◎「寄贈・寄託古文書」

◎新田郡尾島町世良田・高橋富雄家文書

◎江戸時代から昭和戦後期にかけての新田郡世良田村関係文書と高橋家の私的文書です。そのうちの九割近くが江戸時代の世良田村関係のものです。

◎新田郡尾島町武蔵島・宮下八郎家文書

◎中世文書の写も一部ありますが、主に江戸から明治末年に至る新田郡武蔵島村の名主・戸長役場文書と町成立後の武蔵島村の区有文書、宮下家の私的文書・典籍類等です。一八九〇点(P〇八八〇七)

◎大胡町大胡・中島富家文書

◎江戸時代の勢多郡宮岡村名主大川家関係の文書と明治五年頃の米相場や産物を中心とする文書が主なものです。その他に元禄期の勢多郡上大屋村の新田検地帳五二点があります。一三二点(P〇八八一四)

◎山田郡大岡々町桐原・石原敬司家文書

◎江戸時代から明治期にかけての山田郡桐原村関係の文書と石原家の私的文書が主なものです。近世の村行政関係の史料には村入用帳三三三三点があります。

◎前橋市池端町自治会文書

◎江戸時代の池端村村政文書と明治前期の戸長役場で收受した文書が中心です。江戸藩在中の村役人の生活を伝える「江戸府日記」などもあります。

◎新田郡藪塚本町大原・滝原経男家旧蔵文書

◎江戸時代の本町村名主文書と明治期の本町村戸長役場関係文書を中心とする文書です。六八〇点(P〇九六〇七)

◎「マイク口収集文書」

◎前橋市五代町・船戸菅男家文書

◎江戸時代の五科間所関係の文書や年貢割付などの五代村に関わる文書が中心です。九三三点(P〇〇〇二)

◎碓井郡松井田町・霧積温泉金湯館文書

◎霧積温泉や金湯館の広告と、来館者の写真及び著作物の表紙などからなる文書です。一四二点(P〇〇〇六)

◎利根郡片品村・星野市次家文書

◎戸倉間所の番所役人を勤めた星野家に伝わる文書で、間所関係文書を中心に、御留山・鷹巣山関係や鉛鉱山関係の文書などがあります。二九二点(P〇二〇二一)

◎利根郡片品村・松浦新一郎家文書

◎戸倉間所番所役人を勤めた松浦家に伝わる文書で、戸倉間所関係文書を中心に、御留山・鷹巣山関係の文書などがあります。一三〇点(P〇二〇二二)

◎高崎市並檀町・清水真澄氏収集文書

◎江戸時代の名主文書と書状などの私的文書が中心です。

◎新治村教育委員会文書

◎利根郡新治村新治村教育委員会文書

◎猿ヶ京間所関係の文書を中心に、検地帳や買流証文などの土地関係の文書などがあります。一〇二点(P〇三〇三一)

◎多野郡上野村・黒澤右京家文書

◎榎原村の枝郷白井村の名主黒澤家に伝わる名主文書です。同家が白井間所番を勤めていたことから間所関係の文書もあつちます。二〇六二点(P〇三〇三三)

◎多野郡上野村・高橋正佳家文書

◎榎原村の枝郷白井村に実屋と酒屋を営んでいた高橋家の文書です。買屋・酒屋関係文書の他に御栗鷹山の林守に関する文書もありました。五四二点(P〇三〇三四)

◎吾妻郡吾妻町教育委員会文書

◎江戸時代の吾妻郡原町関係の文書を中心に、同郡川戸村に関する文書も含まれています。年貢割付などの年貢関係の史料や吾妻川通船関係の文書などがあります。五五七点(P〇三〇三七)

古文書を継続して学習したい方へ

文書館で毎年開催している入門・長期古文書講座を終了した方の中から、継続して学習する方法について問い合わせがありました。自宅にある古文書を解説したい、博物館などの展示物を説めるようになりたいなど、目的は様々なようです。回答した中から幾つかご紹介します。

① お住まいの地域に古文書学習団体がある場合は、そちらへ照会する方法をお伝えしています。まず市町村の教育委員会や生涯学習課などへ問い合わせ、学習団体の有無を確認します。地元が無い場合は、隣接する地域での団体を紹介します。その際、「文化財ガイド・ブック」・「H10・群馬地域文化振興会編」に掲載されている、県内郷土史等研究団体を参照する場合もあります。

また講座を修了した方たちの古文書学習グループ（古文書同好会、「鯛魚の会」）があり、長期講座終了時には新規会員を募集しています。会員は、県内各地から参加し、月に1、2回文書館を利用し学習しています（土・日曜日）。

② 独学で学習したい方には、過去の古

文書講座のテキストなどを参考に学習するよう助言しています。テキストは文書館二階の閲覧室に置いてあります。また、文書館のHPのインターネット古文書講座もあわせてご案内しています。

③ 古文書を筆写するための原稿用紙は、文書の一行に書かれた文字数を考慮したものをとお勧めしています。ちなみに、講座で使用している原稿用紙は一行二九字詰め二行です。パソコン等で入力する場合のソフトは、「太郎」「ワード」など、一般の文書作成ソフトを紹介しています。

④ 解説の難しくくずし字は、偏や旁を類推し辞書を引く方法を紹介しています。たとえば、「群馬県史」の資料編などで書き方や読み方に慣れ、または、くずし字を楷書体で書き直した釈文と史料とを照らし合わせて学習する方法をお勧めしています。

⑤ 地域で学習される場合のテキストの選定は、文書館収蔵の地元史料をご覧になることをお勧めしています。

地元に残された古文書を地域で学ばれるのが修得への近道、そして学習の継続につながるのではないのでしょうか。

文書館では、史料（古文書・歴史的公文書）に関するご相談をお受けしています。相談日は毎月第二・第四水曜日の午後二時～五時です。ご利用下さい。

活動報告

群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会

群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会（略称、群文協）は、県内38市町村が加盟している連絡協議会で、事務局は当文書館内にあります。

古文書のみならず、日々作成される行政文書（公文書）も将来の歴史資料として高い価値を有していますが、その保存・活用においては今なお大きな課題を抱えているのが現状です。また、いわゆる「平成の大合併」によって、それぞれの町村の持つ膨大な量の公文書が集積され、それらの整理・保存・活用への道は険しいものがあります。



平成18年度 総会・講演会（文書館：5月24日）

講座、公文書等保存施設視察研修会、古文書保存活用研修会等を開催し、市町村における公文書の保存管理における提言や事例報告、具体的な保存・修復技術の実習などを行っています。また、会報「ねつと群文協」を年2回発行し、研修会の概要報告や情報交換の場としています。



平成18年度視察研修会
（県庁総務事務センター：11月30日）

公文書は近い将来それぞれの市町村の行政のあゆみ物語る歴史資料として非常に重要な価値を有するものです。平成19年度に創立10周年の節目の年を迎える群文協では、県内市町村のつながりを基本として、各市町村の積極的な公文書等の保存活用に向けた取り組みを紹介しようと同様に、各市町村が抱える歴史資料保存活動における課題等を持ち寄り、一つ一つの解決の糸口を見出しながら、群馬県における公文書等の保存活用のより良いあり方を探っていききたいと思います。

告知板

○「群馬県行政文書件名目録」第17集
（明治期令達編）の発行

本目録は「群馬県行政文書簿目録第1集」（明治期行政文書簿）の分類項目中「中央令達」「本県令達」に類別されている簿冊九六冊に属する文書から、四六九六件を収録した閲覧用の文書件名目録です。

○「群馬県立文書館収蔵目録」第24集
（桐生・太田・みどり地区諸家文書）の発行

本目録は、「群馬県立文書館収蔵目録」第24集（桐生・太田・みどり地区諸家文書）として、尾島町（現太田市）の宮下八郎家文書（尾島町武藏島）、高橋富雄家文書（尾島町世良田）、敷塚本町（現太田市）の流原経男家田蔵文書（敷塚本町大原）、太田々町の山根鐵家文書（太田市藤久良）、太田々町町みどり市の石原啓司家文書（大間々町町柳原）、桐生市の林晴嵐氏収集文書（桐生市）、佐島英雄氏収集文書（桐生市平井町）の計七件の史料を収録しています。

○「文書館子どもコーナー開設」

文書館では当館の業務や文書により親しんでいただけるように、「文書館子どもコーナー」を始めました。文書館の仕事



「スペシャルピンゴ」と「こどもクイズ」

事を紹介した「文書館スペシャルピンゴ」「くすし字体験」「こどもクイズ」等を準備しています。

特に「こどもクイズ」は季節毎にくすし字を用いたクイズを準備し、大人の方と一緒に楽しめる内容にしています。いろいろ工夫し、このコーナーの更なる充実を図っていきたいと思っています。

あゆみ

【平成17年度】

- 1・21 文書館寺子屋講座開催（館林市）
- 1・28 県庁特別展「震災から復興へ」先人に学ぶごんまの防災！開催（1・2・1）

- 2・7 企画展「震災から復興へ」開催（1・5・28）

- 2・8 群文協主催「文書館後援」古文書等保存活用研修会開催

- 2・13 文書館運営協議会開催

- 3・25 「群馬県行政文書件名目録」第17集（明治期令達編）刊行

- 3・31 「群馬県立文書館収蔵文書目録」第24集（桐生、太田、みどり地区諸家文書）刊行

- 3・31 文書館紀要「双文」第23号刊行

- 【平成18年度】

- 5・19 文書調査委員会開催

- 5・24 群文協総会・講演会

- 5・27 古文書入門講座（1・6・24、全5回）

- 7・3 行政文書の受任・引継収集（県庁、教育委員会）1・7・12、20

- 7・18 文書館運営協議会開催

- 7・20 史料展示（1）「明治時代へタイムスリップ！公文書で見る黎明期の群馬県」（9・24）開催

- 7・21 「県立文書館子ども探検隊」（8・11、全4回）を開催

- 7・29 長期古文書講座（1・11・25、全14回）の開催

- 10・11 公文書等保存専門講座の開催

- 10・25 史料展示（2）「古文書から見る江戸時代」村の掟と庶民の生活」開催（1・12・24）

- 10・20 県立吉井高校群馬学講座講師派遣（1・1・19、全7回）

- 11・18 公開講座「飯塚家文書から見た戦国時代の三波川」池上裕子（成蹊大学文学部教授）

- 11・25 公開講座「大名家と箱館役人の交流」中野達哉（駒澤大学文学部助教）

- 11・30 群文協主催「公文書等保存施設視察研修会」開催（群馬県庁総務事務センター）

- 12・2 「ぐんま史料研究」第24号刊行

- 12・9 文書館寺子屋講座（富岡市）

案内図



発行／群馬県立文書館
〒370-6003 前橋市文京町一丁目一
印刷／松本印刷工業株式会社
字／岡庭征人書

本誌の制作費は、昭和49年21日です。